

修正前	修正後	修正No.	パブリックコメント等の意見	対応
表紙				
<p style="text-align: center;">つながり 楽しむ 手づくりのまちづくり</p> <p style="text-align: center;">みんなでまちづくりを進めるための 協働ガイドライン (案)</p>	<p style="text-align: center;"><u>わくわく つながる</u> <u>わたしたちのまちづくり</u></p> <p style="text-align: center;"><u>ー 富谷の協働ガイドライン ー</u> (案)</p>	①		<p>① 市民協働セミナーにおいて決定したタイトル及びサブタイトルに修正。</p>
【P2】				
<p>2. 現状と課題</p> <p>(1) 市の現状</p> <p>① <省略></p> <p>② 社会環境の変化に伴い、地域の課題や市民のニーズ(要望)が多様化、複雑化しています。</p> <p>③ 市が十分に財源と職員を確保し、全ての課題やニーズを担っていくことが難しくなっています。一方、長年にわたり行われている地域の課題を解決する市民の活動は、広がり厚みを増してきています。</p> <p><以下省略></p>	<p>2. 現状と課題</p> <p>(1) 市の現状</p> <p>① <省略></p> <p>② 社会環境の変化に伴い、地域の課題や市民のニーズ(要望)が多様化、複雑化しています。<u>また、本市は、古くからの地域と全国各地から人が集まってきた新しい地域が融合してできたまちであることから、地域の課題も様々であり、とりわけ新しい地域においては、団地の開発時期の違いなどにより、それぞれに異なる課題が見えてきています。</u></p> <p><以下省略></p>	① ②	<p>① 隣接する市町村のNPO法人や企業等と密接に連携しているものもあるため、隣接する市町村との連携について追加が必要ではないか。</p> <p>② 本市の特徴とも言える「団地造成により発展してきた市であり、それぞれに課題が見えてきている」という点の現状分析の追加が必要ではないか。</p> <p>②③は、本来「公助」で行うべき問題を、市民側に押し付けた考え方であり、「協働のまちづくり」の趣旨を代わりに明記すべきである。</p>	<p>① 自治体間の連携については、広い意味で協働の形態の一つと考えますが、本指針においては、市民、地域コミュニティ団体、市民活動団体、公益法人、事業者、市を主体とした協働を対象としており、また、NPO法人や企業等の主体が市内外の主体であるかどうかを区別して捉えていないため、原案のとおりとする。</p> <p>② ご意見を踏まえ、「また、本市は、古くからの地域と全国各地から人が集まってきた新しい地域が融合してできたまちであることから、地域の課題も様々であり、とりわけ新しい地域においては、団地の開発時期の違いなどにより、それぞれに異なる課題が見えてきています。」を追加。</p> <p>② 本指針策定の背景には、平成28年の市制移行を機に、地域の課題解決に自ら取り組もうとする公益的な市民の活動の高まりとともに、市民が行政とともに地域の課題解決に取り</p>

(仮称)富谷市協働のまちづくり推進指針(案) 対照表

修正前	修正後	修正No.	パブリックコメント等の意見	対応
				<p>組む「協働」の手法を再認識し、市民の思いや活動を活かしながら、よりよいまちづくりを進めていこうという機運の高まりがあり、また、様々な社会環境の変化に伴い、多様化・複雑化する地域の課題や市民ニーズの全てに、市のみで対応していくことには限界があるという現状を分析したものであることから、原案のとおりとする。</p>
【P4】				
<p>②多くの市民をまきこみながら、市民の活動をより活発にし、持続可能な活動にしていくことが必要です。 <省略></p> <p>③ <省略></p> <p>④市は多くの意見を集め、市民に伝え、市民と共に取り組んでいくことが必要です。 ア. 市は様々な意見を集め、それをとりまとめて形にしていくこと。 イ. 市は市民の自主的・自発的な活動をまきこみながら、事業等を発展させていくこと。 ウ. 市民は市の課題がわからないこともあるので、市はわかりやすく市民に示すこと。 エ. 市は市民にお願いするだけでなく、共に歩む姿勢を持つこと。</p>	<p>②多くの市民が<u>つながりながら</u>、市民の活動をより活発にし、持続可能な活動にしていくことが必要です。 <省略></p> <p>③ <省略></p> <p>④市は多くの意見を集め、市民に伝え、市民と共に取り組んでいくことが必要です。 ア. 市は様々な意見を集め、それをとりまとめて形にしていくこと。 イ. 市は市民の自主的・自発的な活動<u>とつながりながら</u>、事業等を発展させていくこと。 ウ. 市民は市の課題がわからないこともあるので、市はわかりやすく市民に示すこと。 エ. 市は市民にお願いするだけでなく、共に歩む姿勢を持つこと。</p>	<p>③</p> <p>④</p>	<p>③「多くの市民をまきこみながら」という表現は市側の目線での表現であり、④の表現を持ってきたほうが良い。</p>	<p>③これまで聴取してきた市民の意見を基にとりまとめた市民の活動に関する記述であり、ネットワーク(人と人の輪のようなつながり)を意味しているが、記述の意図が正しく伝わらないことが想定されるため、ご意見を踏まえ、「多くの市民をまきこみながら」を「多くの市民が<u>つながりながら</u>」に整理。</p> <p>④③に伴い、「市は市民の自主的・自発的な活動をまきこみながら」を「市は市民の自主的・自発的な活動<u>とつながりながら</u>」に整理。</p>
【P8】				
<p>(2)協働を進めるうえで配慮すること <省略></p> <p>⑤年齢、性別、国籍、心身の状況、社会的及び経済的な状況の違い等に配慮するなど、一人ひとりの個性を尊重しましょう。</p>		<p>③</p> <p>④</p>	<p>③指針(案)には、障がい者や弱者への取組が見当たらない。また、外国人への対策がどこにも記されていない。せめても東南アジア各国語と英語での対応が必要だと思います。</p> <p>④⑤について、具体的に書き加えるべき。</p>	<p>③本指針のP8(2)⑤に包含した形で記載しているため、原案のとおりとするが、多言語対応については研究していく。</p> <p>④個個人の置かれている状況は多様であることから、さらに具体的な内容の追加はせずに、原案のとおりとする。</p>

(仮称)富谷市協働のまちづくり推進指針(案) 対照表

修正前	修正後	修正No.	パブリックコメント等の意見	対応
<p>【P9】</p> <p>(3) 協働による活動の進め方</p>  <p>まち・地域をよくするために誰かと協力して取り組みたいことがある</p> <ul style="list-style-type: none"> まち・地域をよくするために何かやってみようという気持ちを大切にすること 広報、ホームページ、SNSなどで情報収集してみる わからないことや困ったことがあれば市役所等に相談してみる 		⑤	⑤ 市役所に相談してみるとあるが、窓口の相談をどのように考えているのか。市役所の窓口だけで役割は果たせるのか。(議会一般質問)	<p>⑤ 事務局 相談窓口は、市民の活動等の情報収集・提供を行い、つながりを支援するなど総合的な窓口として必要であると考えており、市役所がその役割を担う場合は、専門性の高い内容については、専門機関等につなぎながら、幅広い市民の活動を支援していくこととしているため、原案のとおりとする。</p> <p>会長 指摘のとおり、市役所のみでは難しいこともあり、市役所等としている。気軽さと専門性の両面を兼ね備えた市民活動サポート体制の構築が望まれる。</p>
<p>【P13】</p> <p>4. 協働の推進に向けて</p> <p>(1) 方針</p> <p>① 地域コミュニティ活動を推進します。 <省略></p> <p>② 交流を推進します。 <省略></p> <p>③ まちづくりを担う人材を育成します。 <省略></p> <p>④ 富谷を愛し、自発的に活動する子どもたちを育成します。 <省略></p> <p>⑤ 情報を共有します。 <省略></p>		⑥	⑥ 方針には具体的に目標の到達点を設けるべきである。	⑥ 方針は、総合的に協働を推進するための方向性を示すものであり、具体的な目標の到達点を設定するものではないと考えるため、原案のとおりとする。
<p>【P14】</p> <p>(2) 推進に向けた取組 <省略></p> <p>④ 多様な主体による協働を推進するための体制をつくります。 ア. 市役所全体でより協働を進める体制と、風とおしのよい活気ある職場風土の構築</p>		⑦	⑦ NPO活動のように、市内にとどまらない活動や組織体制の場合は、どのように扱うべきかを付け加えるべきである。	⑦ 活動やサービスの範囲が市域内に限定されるのは市(行政)のみであり、活動範囲の違いによる扱いを本指針の中で整理する必要はないものと考えられるため、原案のとおりとする。

(仮称)富谷市協働のまちづくり推進指針(案) 対照表

修正前	修正後	修正 No.	パブリックコメント等の意見	対応
		⑪	⑪サポートセンターがなければ循環は果たせない。サポートセンターがなくても可能なかどうか。(議会一般質問)	⑪⑨に同じ。 会長 市民活動サポートセンターの拠点設置の議論とともに、支援における機能面の検討が重要になる。これまではサポートセンターを設置し、そこに人材を配置し、NPO法人の設立を後押しすることがサポートセンターの主業務であったが、今後は、協働のマネジメントが求められる。サポートセンターの整備とともに、人(センタースタッフ)に頼りすぎない、富谷の市民活動支援の仕組みの更なる検討が今後必要になる。